

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスビリーブ		
○保護者評価実施期間	令和7年11月29日		令和7年12月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和7年11月29日		令和7年12月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多彩なプログラム内容や連携、交流の場を設けている	季節ごとのイベント、外出行事、クッキング、公共交通機関の利用など利用者が楽しみながら、成功体験や経験を積むことができるように計画を立て、生きていく力を育てていけるような様々なプログラムを実施している。また他のデイサービスとの連携や合同のイベント活動も年に数回つくり、たくさんの人との交流の場をつくっている。	利用者や保護者からの意見やリクエストも取り入れながら、一人一人が様々な成功体験や経験を積んでいけるよう、さらに充実したプログラムを考え、工夫しながら行っていく。
2	手厚い人員配置と色々な専門的資格・経験者による支援	基準より手厚い人員配置となるように、非常勤職員も含めて支援にあっている。 また、社会福祉士、精神保健福祉士、学校教諭、保育士、児童福祉事業経験、5年以上の経験などの有資格者をはじめ、様々な支援の現場に従事した経験のある職員が多く在籍している。	質の高いプログラムが実施していけるように、研修などを行い、職員の質の向上を図っていく。また、専門的支援加算を取り入れて、様々な専門的有資格者から見た支援を行っていく。
3	家族同士の交流の場や日々の子どもの様子や情報共有を記録や写真にして共有できるようにしている	毎年、保護者や兄弟姉妹が交流できる機会をつくり、子ども達が楽しむ様子を見てもらったり、悩みや相談をみんなで分かち合う機会をつくっている。また、日々の連絡帳とは別に写真を配付し、様々な活動の様子などを知ってもらうことや利用者が家で活動の内容を話やすいように、保護者に安心感を持ってもらえるように情報共有を工夫している。	今後も保護者の方と密に情報共有を行い、支援の共通認識をもたうえて、寄り添いながら一緒にお子様の支援を行っていく。利用者の日々の活動の様子がわかるよう写真等でも情報発信・共有していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースについて	定員に対してのスペースの基準は満たしているが、実施する活動内容によっては、利用者の活動等のスペースが十分に確保できないことがあり、配置など工夫が必要である。	限られたスペースではあるが活動内容に合わせて安全面に考慮し、同時に活動する人数を調整したり、時間を分けて活動させるなどの工夫を行っていく。スタッフ間で死角や危険箇所などの共有を図り、利用者の安全の確保を今後も行う。活動する場合は日頃から必要な教材や道具だけを室内に置いたり、工夫して整理整頓を行ったりして、出来るだけ活動スペースを確保できるようにする。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があまりない。	コロナ禍による活動自粛等の影響により、交流する機会が減ってしまっていた。現在は、地域の公園の利用やお店の使用などを通して、地域の方との交流を図ることはあるが、放課後児童クラブなどの団体同士での直接的な活動の機会は設けられていない。	地域の活動の情報をホームページ等で確認したり、地域の行事に参加するなどして必要に応じて交流をもつ機会を検討していく。
3	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているが、把握できていない保護者がいる。安心して利用してもらえるよう随時伝えていく必要がある。	実際に行う日などは予約時に伝えているが、ホームページ・SNS等での配信については、基本的に外の活動イベントを配信しているため、研修や訓練等の様子や実施が保護者があまり把握できていないところがある。	保護者が安心して事業所に送り出すことができるよう、ホームページ・SNS等で、できるだけ職員の研修や訓練等の実施についても配信していく。